

4) 社会福祉：国民の不満を抑え、王政への忠誠を確かにする為、サウディ政府は豊富なオイルマネーを活かし、様々な社会福祉政策を取っています。税金はイスラムの喜捨の教えもあり所得税率は低く抑えられ、関税率も国内に競合する産業がない為低く、欧米の乗用車は日本国内で買うより安くなっています。医療費も、民間の一部の医療行為や医薬品代を除いて、原則只ですが、最近は膨れ上がる医療費に政府は健康保険の適用を考えているようです。少し脱線しますが、衛生医療が浸透した事と一般家庭に冷房設備が普及した事により、この30年程の間に人口が驚くほど増え、77年に赴任した頃人口800万人だったのが、2000年で2000万人（但し長期滞在外国人がこの内600万人います）以上に膨れ上がり、25才以下の人口が3分の2となっています。

電力や飲料水も水・電力公社が全土に設備を網羅し一般家庭の負担は月に2000円程度に抑えられています。ちなみにサウディ人の最低賃金は月18万円で、他に配偶者や扶養家族に手当が出ています。公共の運輸手段はバスと一部地区だけ走る鉄道・飛行機だけです。殆どの成人男性は車を持ち運転しています。サウディでは女性の運転禁止ですが、周辺のイスラム諸国では女性も運転が許されています。ガソリンは1リットル27円で、ペットボトルで売られているミネラルウォーターの1リットル30円より安くなっています。小麦粉・塩・砂糖・食用油・紅茶などの基礎食品も政府が補助をしている為国際価格より安く抑えられています。土地はイスラム教で神から与えられるものと言う教えもあり、現在では政府の許可を取り賃貸料を納めれば良いという考え方なので、日本の土地価格の話をする、皆一様に驚いていました。

10．課題：長い間の殖民支配の後、現在の祭政一致の王政になり80年経ちましたが、石油で潤い急速に近代化が図られた結果、様々な課題がサウディアラビアに出ています。

- 1) 若年層の失業：全人口の3分の2の若者が職業に貴賤意識を持ち、外国人を常時雇用。
- 2) 反体制活動：王政への不満を持つイスラム過激派が増えNY19人中13人サウディ。
- 3) 交通事故・麻薬・酒：年間死者5000人（日本の4倍）。麻薬や酒常用の若者増加。
- 4) 財政赤字：石油収入に対して1990年の湾岸戦争後軍事費や社会保障費が急増した。

11．石油：過去2回（73年第4次パレスティナ戦争、79年イラン革命）のオイルショックは今後も起こる可能性があります。当時の備蓄は60日でしたがマスコミの騒ぎ過ぎで混乱が起き、現在は180日以上に増やされました。地球上に偏在する石油は平時には市場を通じて購入できますが、一旦事があると戦略物資に変わります。2000年に日本政府はサウディの申し入れを蹴ってカフジ油田の利権を失いました。出光・苫小牧のタンク火災はナフサのような揮発性の高い油は火がつくと現在の技術では中々抑えられない事をテレビでご覧になったことと思います。地下に備蓄しておけば安全で確実に数十年に亘って石油が供給できたのですが、2000年当時の政治家・官僚はそこを無視しました。

石油埋蔵量は2000年時点で約40年（ちなみにガスは50年）と予測されています。この数字は私が多賀を卒業した40年前と変わっていません。これはこの40年に石油関連の探査・掘削・生産技術が大きく進歩した事、寒冷地や大水深海底などでの新油田発見があった事などによるものです。一般の油田の回収率は15～20%と言われていますが、この数字を10～20%向上させる安価な回収技術が生まれれば更に寿命は延びる可能性があります。ただ注意しなければならないのは「石油は地球上に偏在するもの」という事で、残念ながら日本は南西アジアに90%も頼っている点です。

2000年の寿命予測も、この時の経済予測や消費傾向等を前提としていますので、この前提が変化すれば当然寿命も短くなる可能性があります。例えば10年前から石油の純輸入国となり毎年驚くほど輸入増加させている「中国」が産業を発展させて米国並みの石油消費水準になったり、今世紀半ばには世界一の人口大国と予測されている「インド」の石油消費が予想以上に伸びたりすると、私達の孫の世代で石油が枯渇する事は充分予測出来ます。有人宇宙飛行を成功させ、石油のある国々になりふり構わず政治力を発揮している中国に、かつては5000億、現在でも1000億円もの税金を費やしている日本政府は全くお人好しと他の多くの国々から見られています。

ガスは石油より埋蔵量があり、日本近海でも「メタンハイドレート」という白い氷のような形状のものが存在する事が判っていますが、その回収技術向上が当面の目標です。石油はエネルギー資源であると同時に、各種工業製品の原材料でもあります。今後はエネルギー分野での消費を極力抑え、ガス・風力・燃料電池などで代替させ、工業原材料としての石油を出来るだけ長く保持する方向に持って行くべきであると思います。

以上とりとめのない話を長々とお静聴頂き有難うございました。 04-04-20 北村 勝昭